

「名美の滝めぐり」

広大な森林地帯が広がる北海道上川北部では誰もがくつろげる自然（滝）が豊かにあり旅人を待ち受けている。

写真 かにたに
絵 はちや

八月の後半、続く熱帯夜を逃れ涼を求め北海道へ、一泊二日の日程で旅行をすることになった。羽田空港を十時十分発のエアドゥーニー便で旭川空港に十一時四十五分着。バリユーの割引チケットは、片道二万円だった。空港前でレンタカーを調達、旭川市内へ。機内のクーラーが効き少々冷えた体を回復するため旭川の醤油ラーメンが食べたくなった。腹ごしらえが終わりいざ目的地へ、旭川より北へ約一〇〇キロのところにある名寄市と美深町へ。七箇所の滝と変わったマツがあるという松山湿原、それに仁宇布にある原生保存林、忘れてはいけない、美幸線跡地に作られたトロツコに乗ることだ。

今日は、天気も良くやけに車は少ないのでドライブ日よりだ、途中、三浦綾子さんの小説の舞台でもある「塩狩峠」を越え一時間ほど行くと

目的地である名寄市に入った。ここからは、このマップのとおりに進み、最初の滝ナイオロップを見てふと時計を見ると三時三〇分を過ぎていたので次の比翼の滝と晨光の滝を見て本日は宿へ。

次の日も天気は良く宿を八時に出て激流の滝、高広の滝、雨霧の滝、女神の滝をめぐりマイナスイオンをたっぷりいただき、いざ松山湿原へ、天竜沼駐車場まで車を降り約三〇分ほど歩くと一気に稜線が開けた。ここが湿原か、木道を進むとあった、「通称ニウブ松」このマツだ。湿原を一周してまた駐車場へ。次は仁宇布原生保存林へ、ここは、原生林らしく大きな木がある。林には遊歩道があったので、そこを散策する。ここではクイズのカンバンがあり、クイズをしながら進むと新しく倒れた木が目立つ、そこには「平成十六年九月

●ナイオロップの滝

名寄駅前より出発し駅前の大通り美深名寄線を北方向へ二、八キロメートル進むと日進橋があり渡ってすぐ右折（カンバン有り）し、三、五キロメートル進むと道路が二手に分かれているそこを、右へ六〇メートル進むと砂利の駐車場があった。ここより案内板に沿って四〇メートル進むとこの「ナイオロップの滝」が左に見えてきた。この滝の特徴は高さ二〇メートル位から何段もの石段を伝って静かに流れ落ちてくる様子です。



国有林の中の滝です

「駐車場より滝までの間にはウルシが多いので気をつけましょう。」

●比翼の滝

ナイオロップの滝を後にし、美深名寄線まで戻り右折し天塩川沿いを走り六、六キロメートル進むと右側に名寄タイヤテストコースのカンバンがあり、そこを右折し智東三号線林道を五、三キロメートル進むと右側に比翼の滝のカンバンが見えてきた。ここは、滝壺まで降りる階段が



みごとな、2段の扇形の滝です

の台風十八号被害による風倒木です」と書いてある。ここも三〇分ほど見て仁宇布市街へ、市街といってもわずかに一ヶ所の信号機が、トロツコの乗り場と小さな食堂があるだけ、そこで昼食をすませて、トロツコに乗ることにした。すべて順調に進んでいる、ここを出たのが三時過ぎで帰りの飛行機が八時二十五分だから、途中寄り道しても大丈夫。



あり滝のそばまで行くことができた。この滝は、高さと幅が約十メートルあり、羽を広げたような扇形をしている。

●晨光の滝

次は、晨光の滝です。比翼の滝からさらに奥にあった。同じ林道を約一キロメートル進むと右側に二つの滝が見えてきた。この滝も、滝壺まで降りる階段があったので下まで降りてみた、どうやら左側が晨光の滝



左右が対照的な滝です

のようで、落差十メートルほどある。
また、右側の滝については、落差約三五メートルほどあり細長い滝だ。左右がこれだけ対照的な滝も珍しい。気になるのが晨光の滝の横にある落差が大きい滝の名は？

● 激流の滝

宿を出発し美深駅前へここより直進し国道四〇号線を左折し美深町市街を出て一つ目の信号機を左折する



この滝は、切り立った岩の間を水が白く泡立ちながら流れ落ちている

（松山湿原標識有り）ここより道道美深雄武線に入り十キロメートル進むと右正面に激流の滝のカンバンがあり、そこを右折し七線沢林道に入り一・二キロメートル進むと右に激流の滝のカンバンがある。この滝は、狭い隙間を縫うように滝が落ちているという流れている滝だ。

● 高広の滝

激流の滝を後にして道道美深雄武線に戻り右折し仁宇布方面へ四・三キロメートル進むと右に見えてきた。ここは高広パーキングがあり、ちょっととした休憩に最適で水洗トイレもある。

この高広の滝は、今まで見て来た中でも本格的な滝の一つだ。左右の滝の落差は、四〇メートルほどあるのかな？また、この滝を背にすると仁宇布トロッコ王国のトロッコの折り返し地点のようだった。



冬でも凍らない滝です

● 雨霧の滝

高広の滝で一休みして仁宇布市街へ、信号機を右に回り松山湿原の入口まで二キロメートル進む。ここから林道（舗装）を約八〇メートル進むと二股に分かれていて、そこを右へ（砂利道）二・七キロメートル進むと駐車場がある。この滝は落差六メートルでさほど大きくはなかったが滝のすぐそばまで歩いて行ける。

時間があつたので時を忘れ、雨霧のようなマイナスイオンにどっぷりと浸かれる癒しの空間だった。



この滝は、岩に腰を落としてのんびり自然を満喫できる

● 女神の滝

雨霧の滝の駐車場左側に女神の滝と書かれた標識に沿って少し石の多い小道を約二〇メートル進むと、柱状節理岩という鉛筆を横にして重ねたような不思議な岩の上を流れ落ちる滝が見える。落差は四段あり一

段の平均が二・三メートルほどあるようだ。



岩が滑りやすいので気を付けてください



● 松山湿原

女神の滝を後にして、先ほど通った林道に戻り舗装林道へ、そこを右

に曲がり三・六キロメートル進むと天竜沼駐車場がある。ここにはトイレもある。また、この駐車場から天竜沼湖畔までバリアフリー歩道があり車いすでも利用できる。



秋には、このような紅葉も楽しむことができます

駐車場より登山道入口まで舗装林道を約一〇〇メートル進むと正面に階段が見えてきた。十メートルも進むとすぐに「風穴」のカンバンがあり、登山道右側に寄って手をあててみると、真夏なのにちょうど冷蔵庫の扉を開けた瞬間のような涼しい風が出てくる。風穴を後にして、いよいよ本格的な登山開始、登山道は思っていたよりも狭く人がすれ違ふの

がやっとで、人工的に作られた登山道ではなく人が歩くうちに自然にできた道のような。思っていたよりも登りはきつい、四五〇メートル進むと展望台に到着、大きな岩盤にある天然の展望台だ。ここからの眺めも良い。仁宇布市街はもとより、遠くには函岳を見ることもできる。



登山道の途中にある
展望台からの眺め

● 仁宇布 原生保存林

松山湿原を後にして先ほど来た道を仁宇布の交差点まで戻って信号を右へ道道二二〇号（美深中頓別線）に入り約三・四キロメートル進むと正面左上に仁宇布原生保存林の看板が見えてきた。そこを左折して

砂利の道に入り二〇〇メートル進むと丁字に道が分かれている。そこを右へ（二九線沢林道）入り、標識に沿って四・七キロメートル進むと駐車場がある。この仁宇布原生保存林



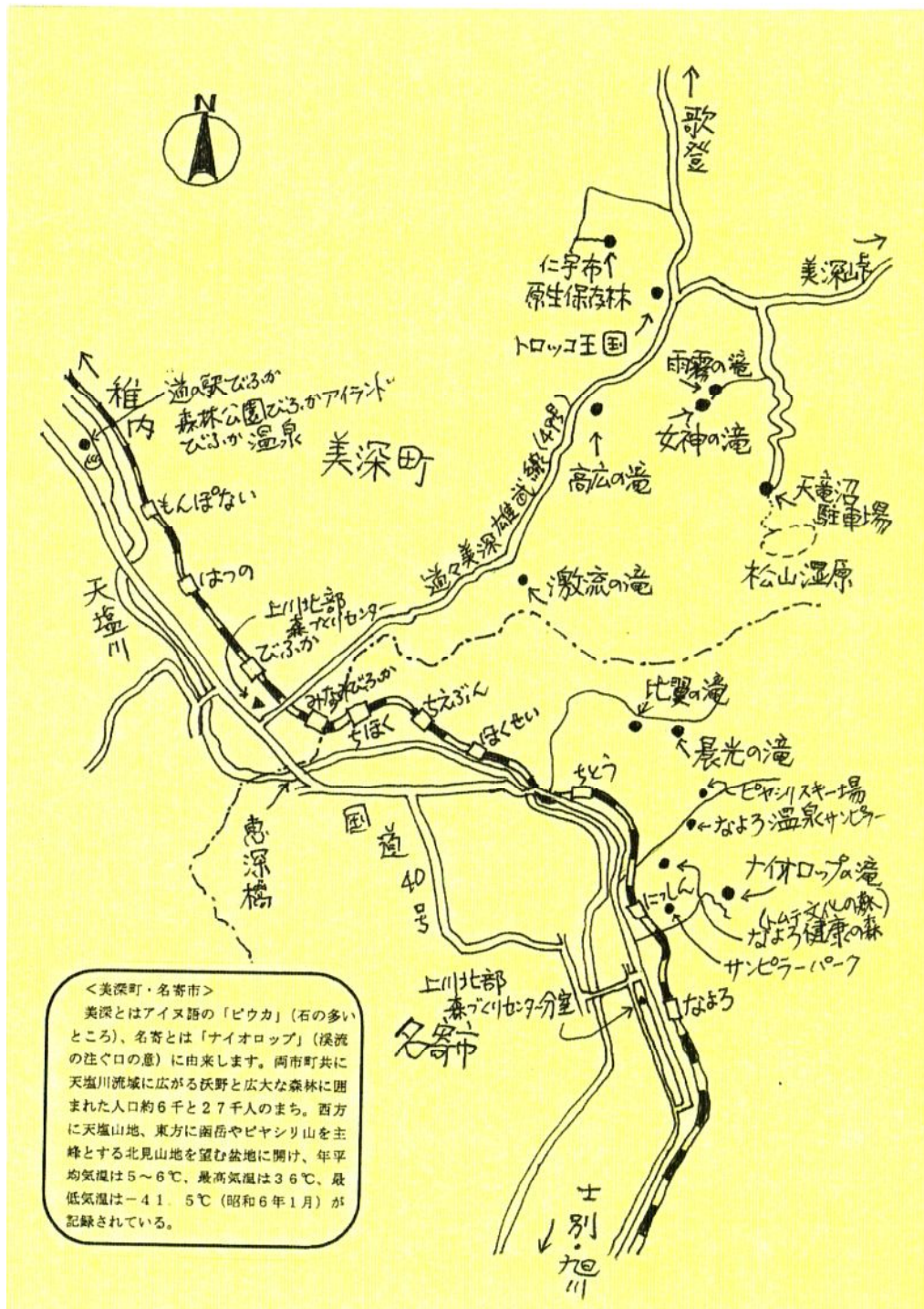
仁宇布原生保存林の
駐車場からの風景です

は、雪の多い寒いところに自然に出来上がった森林を将来にわたに残し、研究するために設けられたもので、昭和四十一年に手入れのため少量の伐採をしました。が、原生林に近い状態の森林なので「原生保存林」と名付けられたと説明に書いてある。林内を散策すると、倒木更新（倒れた木の上で種子が芽を出し、新しい木が育っていくこと）根上マツ（倒木更

新して、大きく育っていく間に足元の倒木が腐ってなくなり、根が浮き上がった状態。凍裂（低温や急な温度変化で樹木が縦に裂けるように割れること）など、珍しい現象がたくさん見ることができた。

最後に残ったのが仁宇布市街まで戻りトロッコに乗ることだ。

- 上川北部森づくりセンター 01656-2-1726
- 名寄市役所 01654-3-2111
- なよろ観光まちづくり協会 01654-9-6711
- なよろ温泉サンプラ 01654-2-2131
- 美深町役場 01656-2-1611
- 美深町観光協会 01656-9-2470
- びるか温泉 01656-2-2900



＜美深町・名寄市＞

美深とはアイヌ語の「ピウカ」（石の多いところ）、名寄とは「ナイオロップ」（溪流の注ぐ口の意）に由来します。両市町共に天塩川流域に広がる沃野と広大な森林に囲まれた人口約6千と27千人のまち。西方に天塩山地、東方に函岳やピヤシリ山を主峰とする北見山地を望む盆地に開け、年平均気温は5～6℃、最高気温は36℃、最低気温は-41.5℃（昭和6年1月）が記録されている。

